

● 新規購入図書紹介

図 書 名	著 者 / 編 集 者	出 版
経営管理		
生成AIによる業務改革 ChatGPTやBardを活用した業務効率化	森雅俊	青山ライフ出版
仕事のできる人を 「辞めさせない」15分マネジメント術	岡本文宏	WAVE出版
公害・環境工学		
気候変動を学ぼう 変化の担い手になるために	クライメート・リアリティ・プロジェクト・ジャパン (編) 平田仁子 (著) 他	合同出版
芸術史・美術史		
瀬戸内国際芸術祭と地域創生 現代アートと交流がひらく未来	狭間恵美子	学芸出版社
地方自治・地方行政		
こうすればうまく進む 自治体システム標準化 & ガバメントクラウド	三木浩平・吉本明平 (共著)	ぎょうせい
社会福祉		
今日から始める 家庭の防災計画	高荷智也	徳間書店
子ども白書2023 特集いま、子どもの声を(きく)	日本子どもを守る会	かもがわ出版



石 垣



先日、県外に住む友人が「お城のある街で暮らせるなんて羨ましいなあ。」と私に言いました。続けて「和歌山城って誰が建てたの？」と聞くのです。自信なく「え〜っと、たしかあ〜、徳川・・・よ、よりのぶさんだったような」としどろもどろに答えました。正しくは羽柴（豊臣）秀吉が弟の秀長に命じて岡山（虎伏山）の峰に築城させたのが始まりです。徳川家康の十男、徳川頼宣が入城したのは1619年のこと、紀州徳川家の成立です。

城がある虎伏山は標高約49m、和歌山城は、その山麓に築かれた平山城です。伊予松山（愛媛県）、姫路城（兵庫県）と共に日本三大平山城と言われています。

今回お城のことを調べる中で、私は特に石垣に心ひかれました。秀吉のころと浅野のお殿さまの時代、徳川時代では、石や積み方に違いがあります。

秀吉の時代は、緑泥片岩（りよくていへんがん）を切りだして使い、大きささまざまな石を組み立てる「野面積（のづらづみ）」で天守の回りや山吹溪に見られます。また「転用石」といって、ほかで使われていた石をはめこんだりもしていました。

徳川時代になると、花崗岩（かこうがん）を運んできて、すきなく石をつむ「切込みハギ」という積み方になりました。

亀の甲らのような形にするのは、「亀甲積み」と言いい、まるでパズルのようです。

ところで「城郭合体オシロボッツ」をご存じでしょうか？「もしも、実在するお城がロボットになったら」がコンセプトのMIXI制作のアニメで、ここに和歌山城も加わりました。虎の威厳と白馬の優雅さを併せもったロボットになっています。

天正の時代から令和まで、そしてこの先も、和歌山城は、私たちの人生を彩ってくれるお城です。